

令和6年度 第1回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和6年8月8日(木) 14時～15時50分

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

3 出席者

(委員) 明保委員長、館副委員長、大村委員、吉野委員、男全委員

(事務局) 教育長、教育次長、生涯学習部長、生涯学習部次長、郷土博物館長、
郷土博物館職員4名

(傍聴人) なし

4 議 事

報告事項(1) 令和5年度 郷土博物館事業報告

(2) 令和5年度 文化財保護の取り組みについて

(3) 令和6年度 郷土博物館事業計画

その他

5 協議概要

(1) 令和5年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委員) 「浦安の風景画展」のアンケートについて、Webアンケートの回答率が低いのはなぜか。この課題をクリアしていけば、多くの方にアンケートに回答していただけたらと思うが、どう考えているか。

(事務局) 今回の企画展に来場し、アンケートの記入までしてくれる層は、比較的年代が高く、Webより用紙の方が回答しやすかったのではと感じている。今後はWebアンケートをより周知するとともに、ホームページからも回答できるようにしたい。また、企画展そのものについて、若年層に働きかけるものを考えることも必要だと考えている。

(委員) 近隣市の博物館と比較して入館者数がかなり多い。屋外展示場があり、体験型ということもあると思うが、どのように分析しているか。

(事務局) 多くの来館がある要因は、まず屋外展示場にあると考えている。近年、SNS等で話題になることも多く、若年層の来館が増えている。次に、入館料が無料のためリピーターが多いこと、また、市域が狭く、市内の各地域から自転車で来館できるという便利さや、体験事業も多く、博学連携事業を通じて博物館を知った子供たちが、土日に家族と再び訪れることも多い。これは、他の博物館にはない当館の特徴だと考えている。

(委員) 普通の博物館だと、大人でも、1回見たらリピートはあまりしないと思うが、体験型ということで、その都度、イベントごとに参加することで飽きがこず、リピーターが多くなっていると思う。

(委員長) 現在の良さをどんどん生かしていって欲しい。

(2) 令和5年度 文化財保護の取り組みについて

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 伝統文化出前講座について、学校から依頼があつて行うものだと思うが、学校数の割に実施回数が少ないのではないか。教員が講座のことを知らず、依頼していないだけということもあると思う。すべての学校を回るのは無理だと思うが、教員は講座開催についてどこで情報を得られるのか。
- (事務局) 年に5回分の謝礼金を当初予算として計上しており、その回数の中で派遣している。4月に市内全校のすべての学年主任にあて、博学連携事業として実施できる体験等について通知し、学校から申し込みが来ている。
- (委員) 無形文化財について、吉野委員に伺いたい。三社例大祭での囃子保存会の演奏は、どのような経緯で行っているのか。
- (委員) 保存会として神社から依頼を受けて、三社に分かれて演奏している。
- (委員) 8年ぶりの祭りを見て、改めて祭りや囃子の力というものを感じた。今後、子どもたちも祭りの囃子演奏に参加していけるとよいと思った。博物館としては、三社例大祭に関してどのようなかわりがあるのか。
- (事務局) 6月9日に、公民館との連携事業「うらやす三社めぐり隊」として、三社や神酒所をまわり、各所の関係者や総代に話を聞くイベントを開催した。また、同日午後、ジュニア学芸員が企画した、「三社祭りってなあに？」を開催し、例大祭の解説や、樽神輿担ぎ体験等を行った。イベントを通し、市民や来館者に祭りへの気持ちを盛り上げることができたと考えている。
- (委員) 祭りは宗教行事であり、博物館で扱うには難しいところもあると思うが、浦安の文化として紹介しているということで良いか。
- (事務局) そうである。また、学校からも、祭りについて学ぶ機会を設けられないかと相談があり、博物館を通して、豊受神社の東組連合が明海南小学校に出張し、神輿体験などの機会を設けた。

(3) 令和6年度 郷土博物館事業計画

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) ジュニア学芸員が昨年に比べ進化していて、良いことだと思う。スペシャル学芸員講座については、今後増やしていく計画はあるのか。
- (事務局) 昨年度は、お洒落踊り体験講座とベカ舟操船講座を開催し、今年度も引き続き実施している。そのほか、新たな企画を実施したら随時報告する。

その他

欠席の前田委員より、事前に博物館への提言書の提出があつたため、委員長が代読した。主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 提言にあった少子化問題について、先日浦安市の出生率が県内でワースト3というニュースを見て愕然とした。実際、新町・中町地域も子どもが減っていると感じている。
- (委員) 浦安では転出入が多く、北栄地区などは高齢化率10%くらいであるが、若い世代にとっては持ち家を買うのが難しいなどの問題があると考えている。また学校ではPTAが存続できないなどの問題もあり、地域・学校内のつながりが希薄になりつつある中、ジュニア学芸員は期待が持てる。少子高齢化の中で博物館の果たす役割は、親子で安心して利用することができ、友達ができる場所として、側面から働きかけていくことだと思う。
- (委員長) 二人の委員の意見を反映して、博物館運営をお願いしたい。博物館利用者としての観点からは何か意見があるか。
- (委員) 中学校では、学校からのお知らせがアプリでの配信に変わった。博物館のイベント募集のお知らせも来るが、手紙で配布しているときと応募数に違いはあるのか。学校で手紙が配布されると子ども自身が読むことができるが、アプリの通知だと保護者の見落としもある。
- (事務局) 教育委員会では、「キッズビュー」という保護者連絡アプリを導入しており、博物館では紙のお知らせと併用し、保護者と子ども両方に通知が届くようにしている。保護者が通知を目にする機会も増えていると思うので、有効に活用したい。
- (委員長) 先日、「広報うらやす」で、博物館主催の文化財住宅イベントについて知り、見に行くことができた。年配の方は広報紙の方が情報を得やすいということもあると思うので、通信方法がいろいろ変わっている中ではあるが、双方の良いところを取って行ってほしい。
- (委員) 浦安の未来について考えていくという提言について、博物館で過去や歴史について学び、それからどういう未来の姿にするかと考えていくのは大事なことなので、調査研究する場を博物館に持つというのは良いことだと思う。現実的に可能な範囲から、少しずつやって行ってほしい。
- (事務局) 博物館としては、ここに来た子ども達が、大人になっても浦安に住み続けたいと思ってくれるようにすることが使命だと考えている。平日、学校の授業で浦安の勉強をした子ども達が、土日に保護者とやってきて、保護者が子ども達から浦安について教えてもらうことで、親子のコミュニケーションも取れる機会になる。そして大人になっても浦安に住みたいと思ってくれる、という形に繋がればよい。
- (委員長) 博物館が浦安の文化や伝統を大事にしていくことで、浦安に生まれた子どもたちが、浦安に戻ってくるということにつながるということもあると思う。委員の皆様の想いを受けて、運営して行ってほしい。

以上をもって、令和6年度第1回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。